

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は回復している。

- ・ 鋳工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

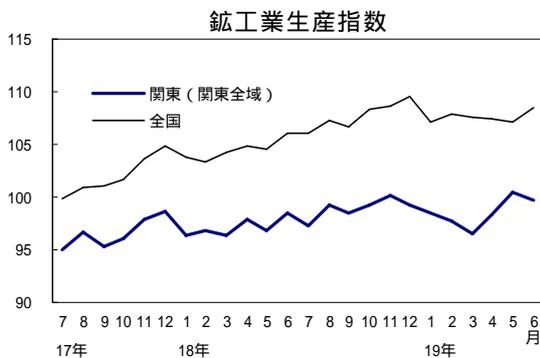
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置が前期の反動で減少したものの、韓国・台湾向けの半導体製造装置が好調であったため、増加している。化学は、化粧品などに使う酸化プロピレンは減少したものの、フェノールなどの樹脂原料が好調であったため、増加している。輸送機械は、普通乗用車は堅調であったものの、小型自動車が減産の影響で振るわなかったため、おおむね横ばいで推移している。情報通信機械は、テレメーターやテレコントロールなどの遠隔自動データ収集装置に動きが見られたことから、増加している。電気機械は、医療用X線装置が前期の反動で振るわなかったため、減少した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成19年6月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	13.8	1.5	2.4	2.4	2.0
化学	13.7	5.7	4.1	4.7	6.1
輸送機械	11.3	4.8	1.0	2.8	0.7
情報通信機械	8.6	3.4	4.1	0.4	0.1
電気機械	7.9	4.4	1.1	0.1	9.4
鋳工業	100.0	1.9	1.9	2.1	0.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

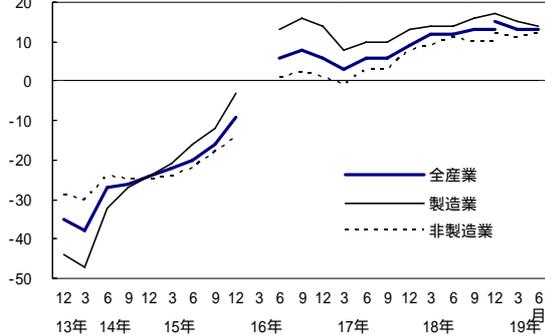
2. 4~6月期は速報値。

3. 4~6月期の化学の生産、出荷は、4月、5月確報値の平均より算出。在庫は、5月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]

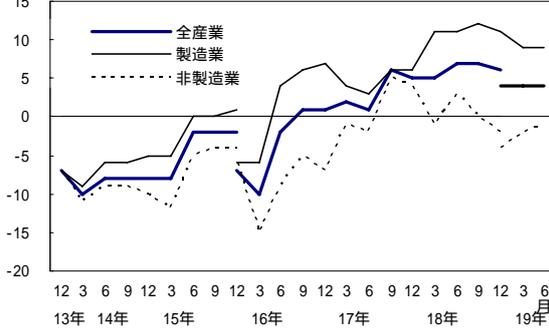


(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。

(%ポイント)企業短期経済観測 [資金繰り判断]

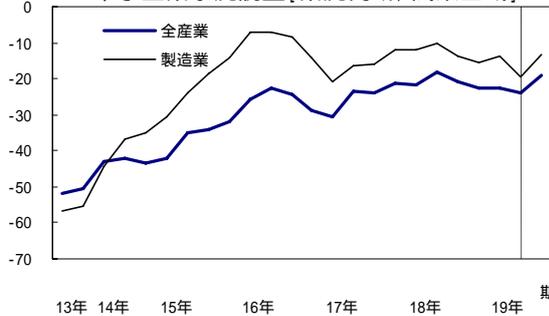


(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

15年12月までは関東全域、以降は日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「街中の再開発が大小進んでいるが、地場の中小企業がそれらの好影響を受けているようにはみえない(経営コンサルタント)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

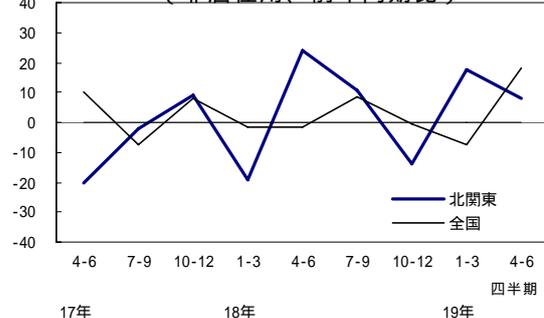
企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	1.3 [2.9]	3.2 [1.0]
製造業	31.9 [33.4]	2.2 [3.4]
非製造業	27.6 [31.6]	11.0 [2.7]

(備考)[]は前回(3月)調査結果。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

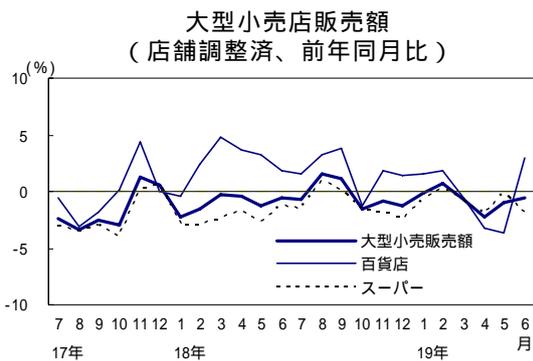
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、天候不順により季節衣料が振るわなかったことに加え、前年の移転改装効果による反動の影響で、前年を下回った。5月は、引き続き移転改装効果の反動や、身の回り品が低調であったことにより、前年を下回った。6月は、夏物クリアランスセールの前倒しにより、衣料品や身の回り品が好調だったことに加え、飲食料品にも動きが見られたことから、4か月ぶりに前年を上回った。

スーパーは、国産ビールなど一部の商品で動きが見られたものの、主力の衣料品が期を通して低調に推移したため、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

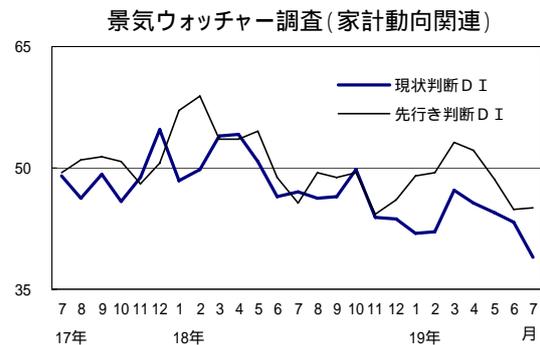
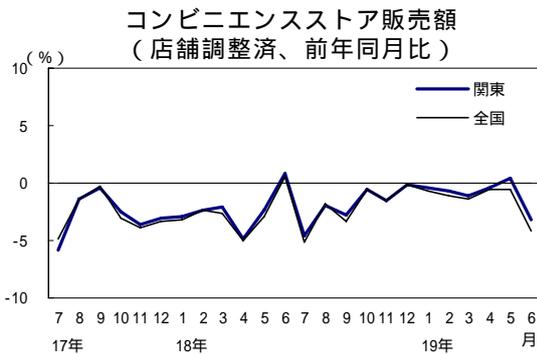
「特売には人が動くが、普段はまばらである。スーパーなどでも朝市等の客寄せがあれば人出があるが、普通の売出しではあまり集まってこない(一般小売店[精肉])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
大型小売店	0.6	1.2	0.1	1.3
百貨店	2.7	0.7	0.9	1.4
スーパー	0.1	2.0	0.4	1.3
コンビニ	3.1	0.7	0.7	1.1
景気ウォッチャー	46.6	45.7	43.8	44.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。19年4-6月期は速報値。コンビニは関東全域。

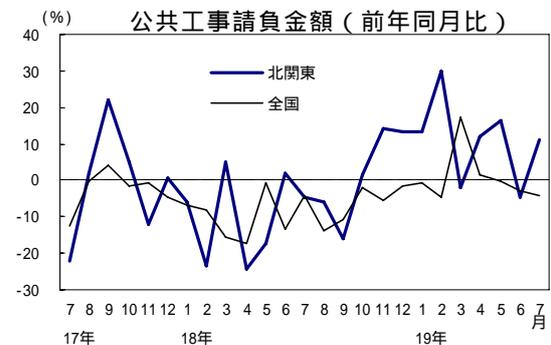
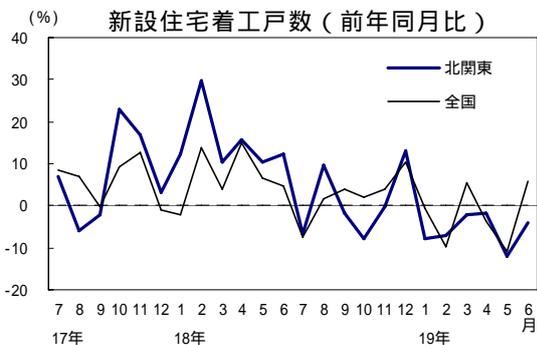
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を上回っている。

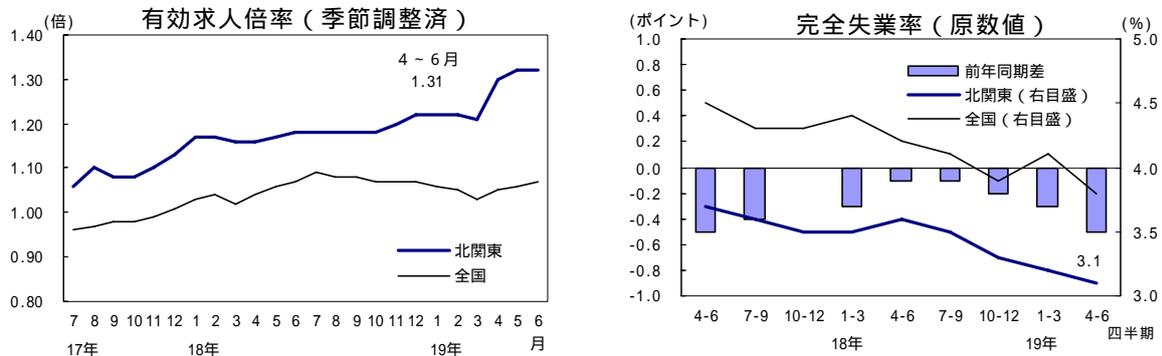


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

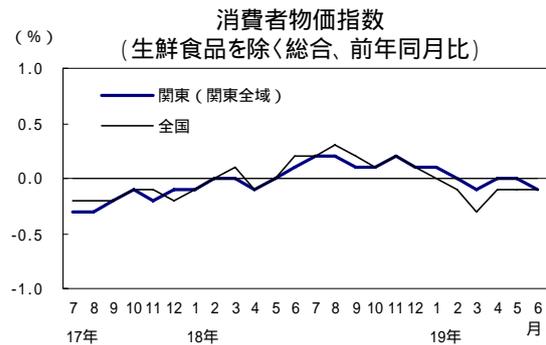
「企業間格差があるなかで、一部の大手企業の業績不振による求人減を、比較的堅調な中小企業がカバーしている（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数が大幅に増加し、負債総額も増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月	19年7月
倒産件数	157	191	209	223	57
(前年比)	4.7	20.9	13.6	45.8	7.5
負債総額	819	1,406	1,119	1,087	396
(前年比)	7.7	40.6	18.3	9.9	40.1



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・地域格差とよくいわれるように、県内でもつくばエクスプレスのごく一部の地域では地価が高騰しているが、当地域の地価はまだまだ下落が止まっていない（住宅販売会社）

<先行き>

・下取りする車はほとんどといっていいくらい走行距離が10万キロ近くか超えている。それだけ、よりギリギリまで長く使用しているケースが目立っている（乗用車販売店）

景気ウォッチャー調査（合計）

